

広報TSB

第2号

平成25年3月1日発行

T O H O K U S E I K A T S U B U N K A
 U N I V E R S I T Y & J U N I O R C O L L E G E

「暮らしワクワク」への 取り組みを進めて

東北生活文化大学短期大学部

生活文化学科長 **松尾 広**



平成二十四年度も終わろうとしております。
 平成二十四年度は『暮らしワクワク設計チーム』
 をキャッチコピーに、「暮らしをデザインする力を
 培うために、実践的な知識・スキルを学ぶ大学。
 学生・教員が力を合わせ、ワクワクするような活
 動を創り出し、地域に発信する大学」を目指し、
 動き出した元年でした。
 本稿の執筆は二月下旬ですが、後期の主な行
 事を振り返ってみます。十月中旬から四週間、短
 大子ども生活専攻二年生が幼稚園実習にのぞ
 みました。十二月十五日には大学家政学科課題
 研究発表会が行われました。二月八日～十三日
 には大学生活美術学科第四十五回卒業制作
 展（二月二十二日～二十四日）には短期大学部生
 活学専攻の平成二十四年度課題研究展が開催
 される予定で、大学・短大での学習の成果が発表
 されます。また、十月二十・二十一日には大学祭が
 開催されました（二十日はオープンキャンパス同時

開催）。学友会、サークルの学生主体で運営され、
 盛況のうちに終わりました。大学服飾文化専攻
 が協力した、十月開催の「ねんりんピック宮城・仙
 台2012」の開会式アトラクションのダンス衣
 装制作をはじめとして、各種地域貢献活動や
 オープンキャンパスなどで、学生と教員が力を合
 わせて取り組み、身に付けた実践的な知識・スキ
 ルを地域の「暮らしワクワク」に向けて発信する
 機会が確実に増えてきたと思います。その他、短
 期大学部では、四月から始まる食物栄養学専攻
 に向けて改装してきた調理学実習室と食生活
 実習室が十月末に完成しました。安全でおいしい
 食事の提供とおいしく楽しく食べてもらうこと
 を実践的に学ぶことができるように、実習設備
 を整えました。今後大学家政学科健康栄養学
 専攻の管理栄養士養成課程と短大の栄養士養
 成課程がそれぞれの特色を出し、層の厚い食の教
 育を行います。
 三月になると大学四年生・短大二年生が卒業
 を迎えます。例年より寒い日が続きましたが、学
 生たちは卒業制作・課題研究の追い込みや国家
 試験の勉強に熱く取り組んでいます。今までの努
 力が結実し、各自のスキルやセンスを生かした仕
 事を通して社会の一員として認められ、さらなる
 飛躍を遂げることを願っております。

保健センターから

▶講演会「教職員のための学生対応の実際」開催

平成24年8月9日、中部大学学生相談室の桐山雅子教授による教職員対象の講演会が開催され、若者の特徴を理解して「聴く」ことの重要性を伺いました。私たちは話を聴いているつもりでも、実は自分の意見を押しつけたり、説教してしまっていることが多く、聴くということはかなり難しいことのように思います。相手の話す言葉だけにとらわれず、言葉以外のメッセージ（表情、態度、声の調子など）にも注意しながら、言葉の奥に込められた気持ちや感情を「聴く」ように心がけたいものです。人は自分の気持ちが受け入れられることによって、「これからどうしようか」と、やっと現実に向けるようになります。せっかく勇気を出して相談に来たのに、否定したり、一方的な助言、忠告で終わることのないように、真摯に向き合って「聴くこと」「気持ちをわかろうとすること」に心がけていきたいと思います。そして、このかわりを通し、**自分の気持ちを語る力、自分を好きになる力（自己肯定感）、人を信頼する力**が育つことを願っています。

若者との対応で教職員や保護者が留意すべき事項

まず、若者の話しを十分に聴くことが大事です。そして、相手の気持ちを受け止めながら会話のキャッチボールができるようになる事が望ましいと言えます。

避けるべきこと：話を十分に聴かずにこちらの価値観で判断し、一方的な反論・否定や賛成をすること、そして一方的に助言・忠告・説教をすることです。

望ましいこと：あいづち・うなづき・繰り返し・質問をしながら丁寧に聴くことが何よりです。また、言葉以外のメッセージも受け取る努力をすること、さらに良いところがあれば褒める・助言する・励ますことも良いでしょう。

「聴くこと」で育てる「わかってもらった!」の不思議

「わかる」とは話の内容を理解することではなく、相手の気持ちを受け入れることです。若者は話して受け入れられることで、「これからどうしよう」という現実に向心と目が向けられるようになります。

▶障がい学生支援

本学には聴覚障害学生が在籍していますが、平成23年度は震災後の東北支援の一環として同志社大学の学生さんから遠隔情報保障支援を受けました。遠隔情報保障支援とは、本学の授業をiPhoneから同志社大学に講義音声飛ばし、瞬時に同志社大学の学生さんがパソコンノートテイクをして本学の障害学生のiPhoneに通訳した文字が送られてくるというものです。多少の時間差はありますが、他の学生とはほぼ同時に授業を理解することができる先進的な方法でした。今年度は本学学生および教職員によるノートテイク支援を行いました。ノートテイクとは聴覚障害学生の耳の代わりになって講義の内容を筆記して通訳する方法です。次年度も継続して支援を行いますので、学生ノートテイクの登録をお願いいたします。



就職支援センターから

過去3年間の本学の進路状況は下表のとおりです。

種 別	卒業年月	卒業者	就職希望者	就職状況			進 学	家事手伝等
				内定者	未定者	内定率(%)		
大 学	24.3卒	82(9)	65(8)	52(5)	13(3)	80.0	6(0)	11(1)
	23.3卒	105(18)	79(16)	66(11)	13(5)	83.5	6(1)	20(1)
	22.3卒	119(23)	87(17)	74(15)	13(2)	85.1	14(1)	18(5)
短 大	24.3卒	81(7)	73(6)	68(4)	5(2)	93.2	5(1)	3(0)
	23.3卒	71(12)	55(12)	53(12)	2(0)	96.4	2(0)	14(0)
	22.3卒	80(10)	69(6)	63(6)	6(0)	91.3	2(1)	9(3)

※（ ）は内数で男子

これまでの本学学生の就職活動の反省に基づいて、特に大切な事項をあげます。

①なるべく早く動き出そう。

卒業前年の12月から就職活動が開始されますが、最終学年になっても活動を開始せず、最終学年の後半になってから学生就職相談室に来る学生が多いという状況です。他大学の学生と比較すると、一年近く活動開始が遅くなっています。なるべく早く動き出すよう奮励をお願いいたします。

②基礎学力を重視しよう。

就職試験の筆記試験問題やSPIで出題されるのは、高校1年生までの学習範囲であり、その応用形であることが多いのです。大学生だから高校で学習したことは十分に理解していると思っているのは、単なる思い込みである学生が結構います。問題集を毎日着実に解いていく勉強が、結局は就職戦線を勝ち抜くことになります。

③学生と保護者との話し合いを。

学生が一生懸命に頑張っても内定通知を得たものの、その会社に就職するか辞退するかで保護者と学生の意見が分かれることがあります。数は少ないのですが、会社にて承諾書を提出してから辞退する例もあります。就職活動を始める前に、就職は県外でもよいのか、地元でなければならないのか、職種は営業がよいのか、事務に限るのか、…これらのことを話し合ってお互いに理解し合っておくことが必要です。保護者は、就職活動に励む学生の最大の支援者です。

大学家政学科

短信



前回の「広報TSB」から約半年が経ちました。この間を中心に、家政学科の動向をご報告いたします。

夏休みの終わり、九月十一日から九月十四日まで、服飾文化専攻二年生の研修旅行が実施されました。今年度は、東京、横浜、鎌倉の方に参り、パレル企業や美術館、博物館、ショッピングモールなどを見学しました。

後期の授業は九月十九日に開始しました。後期の授業の履修登録は四月に行っていますが、前期の成績をもとに、履修科目の修正、追加をする場合もあります。特に、二年生は進級を、そして、四年生は卒業を控えていますので、余裕のある履修計画を立てる必要があります。

今年度の後期から、二年生に対して新たに「ライフデザイン」という科目が開講されました。この科目はキャリア教育の環として行われるもので、就職のみならず、卒業後の人生プランも含めて、大学生の早い時期からキャリア意識を高めることを目的として新設された科目です。また、「ライフデザイン」ではプレゼンテーションのスキルを向上させることも目的としています。

十月二十日と二十一日には大学祭が開催されました。家政学科の学生たちは、服飾や栄養という専門分野を活かした、展示、販売、ショーを行いました。大学祭やファッションショーについては、別冊をご覧ください。

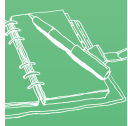


十月十日には、健康栄養学専攻二年生の校外実習が行われました。これは家政特別講義Ⅱの授業として行われるもので、今年度は、セントラルキッチン、キリンビール仙台工場、三井アウトレットパークを見学しました。

十月二十七日には、家政学科の主催で、東北大学の川島隆太先生の講演会を開催しました。脳についての川島先生のお話は惹き込

短大生活文化学科

短信



前にもお知らせしたとおり、生活文化学科は平成二十五年に改組し、食物栄養学専攻と子ども生活専攻の二専攻となります。授業に影響が出ないよう、夏休みの期間を使って実習施設の改修を進めてまいりましたが、十月末に調理学実習室と食生活実習室が完成いたしました。楽しい雰囲気を実習に取り組めるよう、調理学実習室は明るいカラーリングを取り入れました。また食生活実習室は、食空間づくりを学ぶ実習室として新たに設置しました。後期から生活学専攻・子ども生活専攻の授業でも使い始めています。



学科の行事

○二月二十九日 成人祝賀記念行事 柴田三兄妹演奏会(津軽三味線)「Advance」(前進)「本学百周年記念ホール」三月に卒業し社会人となる二年生へのはなむけとして行われる、短大の恒例行事です。今年度は後援会、同窓会の方々と、地域貢献の一つとして双葉ヶ丘、虹の丘町内会のみさんにもご覧いただきました。

生活学専攻

○九月十日 フードエントナティメントコース産学連携講座Ⅰ 株式会社菓匠三全夫町本店で、接客マナー講習、菓子の歴史の講義他
○九月十七日 フードエントナティメントコース産学連携講座Ⅱ 株式会社江陽ランドホテルで、レストラン経営の講義、厨房見学、テーブルマナー実習
○十一月二十日 キャリアアップセミナーⅣ メイクアップ講座 油谷美恵子先生を招き、就職活動などに必要な基本的メイクの実習
○二月二十二日～二十四日 平成二十四年度生活学専攻 作品展示発表会(東京エレクトロホール五階展示室)

まれるような力があり、学生たちに大きな感銘を与えてくださいました。詳しくは別冊をご覧ください。

十二月十五日には、四年生の課題研究発表会が開催されました(写真参照)。三年生の後期から続いていた研究の集大成の場であり、質疑応答でも活発な議論が交わされました。

服飾文化専攻の四年生は月十七日に衣料管理士の試験を受験しました。一方、健康栄養学専攻の四年生は三月十七日の管理栄養士の試験に向けて、追いつきの勉強をしています。

今年度も終盤に入り、卒業式も近づいて参りました。進級、卒業、就職という新たなステージへ順調に進めるように、心を配って参りたいと存じます。

大学生生活美術学科

短信



生活美術学科は、AO入試、高校生のためのデッサンセミナー、オープンキャンパスと八月を慌ただしくスタートしました。四年生は卒業論文の提出・審査に向け担当教員に指導を受けながら、夏休みに関係なく調査、取材、執筆に取り組みました。



九月は、美術鑑賞(二年生)と博物館実習(三年生)の研修旅行が行われました。また多くの学生は、学内開催の「学科内コンクール」の作品制作に取り組みました。表彰式では教員の個人賞、画廊賞などが用意され、その個性あふれる賞品を楽しみにしている学生も多いようです。作品は大学祭で展示しました。十月は第三回SEIBUNアートコンペティションを開催しました。テーマは「スマイル」。高校生・中学生の作品を公募し、表彰と展示発表(十月六日～八日)を行いました。特別審査委員に人形作家の四谷シモン氏をお迎えしました。十二月は、公開講座を地域に向けて開催しました(本学科では五名の教員が担当)。

子ども生活専攻

二年生の実習

○五月末、六月中旬 保育所実習Ⅰ・Ⅱ(それぞれ一週間)
○七月下旬 施設実習(一週間)
○十月中旬 教育実習(幼稚園)(四週間)

一年生の実習

○六月 幼稚園・保育所見学実習(ますみ幼稚園・保育園)、施設見学実習(丘の家・ともホーム)

作品発表

- 八月五日～二十五日 筒井惲乃婦展(四年生) 西脇市主催のサムホール大賞展で優秀賞を受賞した記念展 西脇市岡之山美術館
- 九月十六日～二十三日 第八回BUNBUN展(東北生活文化大学×文星芸術大学交流展) 中本誠司現代美術館
- 十月三十日～十一月五日 TOKYO DESIGNERS WEEK 2012 明治神宮外苑絵画館前中央広場
- 十月三十日～十一月十日 倉茂麻子(四年生)個展「キリヌキ」美術カフェエニカ
- 十月二十三日～二十八日 筒井惲乃婦個展 アートルームエノマ
- 十月十七日～三月三十日 会田誠展「天才でこめんなさい」2010年に本学科学生が参加したワークショップ
- 「MONUMENT FOR NOTHING 2」の作品展示 六本木ヒルズタワー森美術館
- 十月二十七日～十一月九日 鈴木健太(三年生)個展 美術カフェエニカ
- 十二月十八日～二十八日 村井吉朗(四年生)映像展 アートルームエノマ
- 十二月二十日～二十六日 版画ゼミナール展 せんだいメディアテーク
- 月十日～十六日 合同ゼミナール展(絵画・彫刻・壁画デザイン・せんだいメディアテーク)
- 二月八日～十三日 第四十五回卒業制作展 せんだいメディアテーク
- 二月十二日～十七日 陶芸ゼミナール展 メリラボ

ボランティア

- 「ホテルの里サポーター育成講座」(ホテル祭り)のポスター制作と「ホテル祭り」
- 「IRODORI(彩)せんだいプロジェクト」看板制作
- 「ネオクラシック・カクノダテ」角館の古民家や町倉を会場とした作品展示とワークショップ
- 「ねりんピラ宮城・仙台2012」美術展
- 「芸術銀河2012主催事業」美術ワークショップ
- 「風鈴の絵付け」来場者の技術指導

○九月初旬 幼稚園基礎実習Ⅰ(ますみ幼稚園)

○十月二十二日 大学祭

一年生が主体的にフアンタジーランドを企画・運営し、三島レジャーを上演

○十二月中旬 保育所基礎実習Ⅰ(ますみ保育園)、認定こども園見学実習(川崎町立かわさきこども園)

○月下旬 施設見学実習(啓佑学園)

○二月初旬 幼稚園基礎実習Ⅱ(ますみ幼稚園)

○二月中旬 保育所基礎実習Ⅱ(ますみ保育園)



東北生活文化大学
東北生活文化大学短期大学部
TOHOKU SEIKATSU BUNKA UNIVERSITY & JUNIOR COLLEGE

「地域の暮らしをデザインする力」を育む大学

「宣言」私たちは…

- 学生との密な交流を通して、一人一人の個性を育みます
- 専門的学習と実践的体験を通して、暮らしをデザインする力を育みます
- この力を地域の生活と文化の発展のために活かします

本学の使命

幅広い教養と生活と文化に深く根ざした学びで、地域の担い手として社会に貢献する人間性豊かな人材を育成します

目指す学生像





大学服飾文化専攻 1年

大学に入学して1年が過ぎ、学年がつの区切りを迎えようとしております。

この年間、皆さんが取り組んできたことや経験したことを振り返りましょう。

先日、終了した講座「ファッション・ビジネス実務実習」では、週間程度のインターンシップを体験したと思います。お客様から従業員へと立場が変わることで、社会人としての働くことの難しさや厳しさ、または、働くことへの楽しさややり甲斐など、沢山のことを考え、そして、教科書には決して載っていない貴重な体験ができたことと思います。

春休みは、二年間の取り組み(学習・生活・学友会活動など)に対して心身を休みさせ次年度に向けての準備期間でもあります。新年度新学期にまた会いましょう。

大学健康栄養学専攻 1年

健康栄養学専攻年生のクラスの状態をお知らせします。まず、十月に面談を行いました。授業の様子、希望している資格や卒業後の進路、アルバイトの状況など面談を通して詳しく知ることができました。

次に、学生の活躍として、オープンキャンパスや大学祭では、スタッフとして行事を盛り上げてくれました。また、十二月のクリスマス会では、先輩と協力して行事を主催する立場で頑張っていました。

四月からは、二年生になり、専門科目が増えて課題などが多くなっています。一年次の復習とアルバイトなど、「やるべきこと」や「やりたいこと」のバランスをよく考えて、大学生として初めての春休みを楽しんでもらいたいと思います。

いきなりと思っております。保護者の皆様は、悩んでいる時、不安になっている時、どうしていいかわからない時など、最後まで話を聞いてあげてください。聞いてもらうことで安心し、話すことで自分の方向性が見えてくると思います。今後共、宜しくお願い致します。



大学生生活美術学科 3年

三年にもなると制作発表も活発になって行き、大きなところでは鈴木健太君が今年新設された芸術祭彫刻部公募展に於いて宮城県芸術協会賞を受賞しました。荒木香澄さんもNHK総合東北「東北Z」の「ふるさとの絵」に応募し、選出作品と共にテレビ出演いたしました。彼女は日図創作図案総合にも応募し入選しています。学科内コンクールでは佐藤麻依子さん他六名入賞し三年次の存在感を表し始めました。グループ&個展も市内のギャラリーエフマ、ギャラリーエチゴで発表し始め、一月にもlight sourceで十三人の同期でのグループ展、三月にギャラリーGAONGで鈴木菜奈さんの個展等これからも期待される模様です。四年生に向けて、卒業制作・卒業論文、さらには就職活動にも頑張ってください。

大学服飾文化専攻 4年

卒業まであとわずかとなりました。これまでの勉学の集大成とも言える課題研究の発表と論文提出を終え、学生たちは大きな仕事を済ませた達成感にひたっていることと思われます。入学以来、日々の授業、研修旅行、ファッションショー、学内外の様々な行事、教育実習や博物館実習等々思い出深い四年間だったことと思います。あとは卒業を待つばかりとなりましたが、気がかりなことが残っています。就職です。内定者は半数に満たず、就職活動をしているものの、なかなか成果が現れない状況にあります。卒業までに何とか内定がとれればと願っています。

大学健康栄養学専攻 4年

健康栄養学専攻四年生は、十一月にすべての臨地実習を終えて国試対策及びセミナーに集中できるようになり、十二月の模試では全体の成績が上がりました。十一月日には四名の卒業生を迎えて家

大学生生活美術学科 1年

短かった秋から冬に季節が変わろうとする頃から、マスクを着用する学生の姿が目につくようになり、担任として、体調不良を訴える学生の数が増えるものと、心配しましたが、どうも私の警戒は空振りだったようです。大美・年生は入学当初と変わらず、欠席者・遅刻者の少ない、美術を学ぶ学生が構成する集団には少々珍しい程の真面目さを維持したまま、最初の二年を終えようとしています。どうやら、マスクは、流行するかもしれないインフルエンザ等の感染症への対策を学生達が自主的に講じたことの現れのようにです。

大人になろうとする多感な学生達です。水面下では、皆、自己形成の過渡期を迎え、それぞれ悩みを抱えていることは推察できますが、肉面的葛藤と学生としての本分とのバランスを保とうとする健気な姿に、彼達、彼女達の成長を実感します。

大学服飾文化専攻 2年

昨年九月に実施した研修旅行は、天候にも恵まれ、有意義で心に残る旅行になったと思います。

十月には大学祭のファッションショーが行われましたが、服飾文化専攻二年生は、スタッフ・デザイナー、モデルとして大活躍しました。さらに、十一月の「デザインウィーク in せんだい」でも、メディアテークのオーブンスクエアでファッションショーを行い、多くの観客を魅了しました。

もうすぐ今年度も終了し、大学生活も半分が過ぎることになります。三年生になると、専門科目と免許・資格に関する科目が増えます。三年生の後期には課題研究も始まります。卒業後の進路を見据えて、後半の二年間、充実した学生生活を送ってほしいと願っています。

大学健康栄養学専攻 2年

二年生の後期は実習や研修などがあり、これまで以上学業に励む姿が多く見られました。家政特別講義Ⅱの見学研修ではみやぎ保健企画セントラルキッチン、キンビール仙台工場へ行きました。セントラルキッチンではOBの管理栄養士から説明して頂き、来年度の臨地実習に向けてよい勉強になったと思われます。給食管理実習では、初的大量調理に挑み悪戦苦闘しながらも協力して行う難しさと達成感を学んだと思います。また、大学祭をはじめとした学友会活動では本クラスの学生が主体となり活躍して大学全体を盛り上げる役割を果たしました。

政特別講義を行い、各自次のステップに向けて気を引き締めたことと思います。十二月十五日の課題研究発表会は、三年後期からの集大成を全学生の前で発表し、緊張感と無事に終えた安心感が伝わってきました。

就職活動は夏休み以降に内定報告が増えて、現在までに約二十名が内定をいただきました。しかし、内定後も就職活動を継続し、よりよい職場を見出そうと努力しているようです。

大学生生活美術学科 4年

生活美術学科四年生は現在、卒業に向けて最終のハードルである卒業制作を行っているところです。四年間の集大成となる作品としてふさわしいものになるようにと、各人が今までに習得した技術と知識を総動員しながら様々なジャンルの作品の制作に向き合っているところです。また作品の制作だけではなく、二月八日から二月十三日にメディアテークで行われる卒業制作展の運営の準備も同時に行わなければならないため、年末年始の休みもそこに、忙しく動いていることと思います。

短大生活学専攻 1年

入学から早九月、六人でスタートした生活学一年は、人も欠けることなく全員新年を迎えることができました。クラスというよりゼミに近いアットホームな雰囲気も今ではすっかり馴染み、研究室でみんな揃って昼食をとる事も自然になつています。

昨年の大学祭ではフードエンタテイメントコースの学生は、「テーブルコーディネート展」を開催し、方の生活デザインコースの学生は「生活学専攻合同作品展」を大いに盛り上げてくれました。

四月に新専攻の学生が入学すると生活学専攻としてはいよいよ最後の学年となります。就職活動が本格化する時期ですが学業を修めることと将来の道筋を立てること、この二つを悔いなくやり遂げて欲しいと願っています。

短大子ども生活専攻 1年

短大生活で最も大きな行事の一つである大学祭を初めて経験しました。八十周年記念棟が「ファンタジランド」に大変身！輪投げ、ボウリング、魚釣りなどの楽しい遊びのコーナーと、劇三島レジャーと森の仲間たち』をすべて自分たちで考えて作り上げました。当日は、地

たしていました。さらに、宮城県栄養士会主催の栄養まつりではボランティアとして参加することで貴重な体験が出来たと思います。

三年生ではそれぞれの進路に向けてより一層前進することを願っています。

大学生生活美術学科 2年

夏季休業中とはいえ九月初旬には美術鑑賞旅行が、中旬には学科内コンクールがあり、息つく暇もなく十九日に後期授業が始まりました。カリキュラムは基礎的な教養科目はそのほとんどが二年次までの開講となり、三年次からはコースに分かれての学科専攻科目及び資格関連の科目が主となります。十月に実施したコース選択調査では、四つの各コースに程よく希望者が分散しました。但し、中には未だ明確な選択に至らず迷っている者も多く、残り僅かな期間で自分の将来を見据え、コースを決定しなくてはなりません。また、現時点で既に取得単位数が進級の基準に満たない者も若干名見受けられますが辛抱強く学業を継続して、いつて欲しいと思います。

大学服飾文化専攻 3年

九月に学芸員希望者の博物館実習旅行が実施されました。後期に入り、専門科目に加えて大学の学習の集大成と言える課題研究が加わり、各研究室に分かれて研究をスタートしています。二月には発表会が行われ、半年間の成果を報告しました。また、十二月には就職活動が解禁されました。二月の東京での合同会社説明会バスツアーにクラスの半数が参加し、いよいよ本格化しつつあります。現在、個人面談を行っています。活動がスタートした学生、ほとんど動いていない学生、個人差が見られます。学習状況も同様で、一部頑張りが必要な学生も出てきました。学習も就職活動も積極的に取り組み、各自の最終目標に向かってほしいと期待しています。

大学健康栄養学専攻 3年

健康栄養三年生は、六月～十月の間、栄養士・管理栄養士の業務を学ぶ「臨地実習」を体験してきました。実習では実際に実務に触れることにより、仕事に対する責任感、コミュニケーションのとり方を学び、貴重な経験を積んできました。

現在は、就職に向けての企業訪問も始まり、忙しい日々を過ごしていますが、担任としては健康面や精神面に注意を払いながら見守っています。

短大生活学専攻 2年

平成二十五年の新年の抱負は、「内定をもらう」が一番多く聞かれました。振り返ってみれば、昨年の夏の課題は就職活動のはずでしたが夏休みを満喫しきった様子に見えました。早く意識を切り替えようと個人面談を行いました。面談で一人ひとりと向き合えば、それぞれが「働く」ことについて、真剣に考えている気持ちが伝わってきます。しかし、受験に度失敗すると、自信を喪失し、挑戦よりあきらめの気持ちになり、次に向かって頑張れないという印象を受けます。背中を押し続けてほしいと思います。

就職活動と並行して、二年間取り組んできた課題研究の発表会に向けて、追い込みに入っています。最大限に表現して欲しいと願っています。

短大子ども生活専攻 2年

九月半ばの後期に入ってから、ホームルームは毎週木曜日「ゴマ目終了後」となりました。間もなく、十月第二週からの一か月間にわたる幼稚園教育実習に突入し、この時期から就職戦線が始まります。実習中も求人情報が来るため、学生課と連携しながら、そのたび学生のメールに返信していました。

もちろん、実習先が学生各自の実家から通える所にあり、そこに就職できれば、何よりなので、実習事前指導やホームルームにおいて、「実習が就職活動そのものである」ことを強調しておりました。その結果、保育実習や幼稚園実習の実習先から採用された学生も多くありました。今後も三月末まで続く就職活動により、全員社会人として立派に巣立っていくて欲しいと願っています。



大学祭&ファッションショー



本年度の大学祭は、「生文革命」今年動き出す」をテーマに平成二十四年十月二十日と二十一日の二日間にあわせて開催されました。両日とも天気恵まれ、大勢の方が来場されました。屋外では各種団体による飲食関係や小物・雑貨などの模擬店が軒を連ね、大いに賑わっていました。また、五号館前の特設ステージでは音楽関係の演奏や大道芸、球舞(CUBE)のフットボールパフォーマンスなど様々なイベントが開催され、盛り上がりがありました。校舎内では文化系団体の作品展示や、学科・専攻による学習内容に関する展示・発表などが行われ、来場者が展示や発表に

興味を示している様子でした。また、一日目はオープンキャンパスも同時開催され、本学受験を考えている高校生の姿も多く見られました。

一日目の午後三時から、恒例のファッションショーが開催されました。今年は「My Spirit 私の魂」をテーマに、学生たちが仕立てた衣装の数々が披露されました。デザイナー、モデル、会場の運営などすべての役割を学生が担当していますが、学生たちの全霊を込めたステージに、会場からは多くの拍手が送られていました。

大学祭は二日目最後の花火をもって、全日程を無事に終えました。



毎秋季に恒例行事として実施されている「三島学園公開講座 東北生活文化大学講演会」が、十二月二十七日(火)に百周年記念ホールで開催されました。今回は、脳科学者として有名な川島隆太先生(東北大学加齢医学研究所教授)をお迎えしての講演会であり、会場は学生、教職員、及び受講希望のあった一般市民でほぼ満席になるほどの盛況ぶりでした。しかも演題が『脳を知り、脳を鍛え、脳を育む』であり、非常に興味深いものであった上に、川島先生から直接「私たちの脳はどのような構造・構成になっているのか、どのようにして複雑な働きをしているのか、またどのようにすれば脳は鍛えられ、育めるのか」などといったことについてスライドを通して分かりやすく説明していただき、学生たちにとっては非常に貴重で有意義な学習機会になりました。また、講演後の学生からの質疑もいっぴくなく活発で、本当に充実した講演会でした。

中でも特に、「健全に脳を鍛え育んでいく上でも、健康的な生活リズムの維持・継続こそが大切であるが、とりわけ『朝ごはんをしっかりと取る(十分なカロリーと栄養を摂る)』ことが重要である」とのポイントや、ある男子学生からの「日中、ちっともやる気が起きないのですが、どうしたら良いのでしょうか?」との質問に対する、「やる気が起きない第一の原因は、生活リズムが崩れているからと考えられる。したがって、これからは先ず『早寝・早起き・朝ごはん』から始めてみて下さい!」との川島先生からの回答(アドバイス)に至っては、実に多くの学生たちにとって納得のいく生活処方であり重要な教訓になりました。



川島隆太先生講演会

大学生生活美術学科 教授

瀬戸 典彦

専門分野: 彫刻

主な担当科目: 美術鑑賞I・II、美術史I・II



移動の美術

2004年、世界の芸術をリードする500人を対象に行われた調査で、最もインパクトのあった現代芸術作品に選ばれた傑作がただの便器であったことに驚かれる方もいるかもしれません。「R. Mutt」と署名されただけの陶器製便器はピカソの「アヴィニョンの娘たち」、「ゲルニカ」を抑え、1位を獲得しました。それ以降、大勢の美術家達が美術の枠組みの外から中へ、中から外へ、ショッキングなオブジェを入れては出し、出しては入れを繰り返し、独自の脈絡を形成するに至りました。便器は、時に廃棄物に、時に排泄物に、時に剥製に、時に殺人現場に姿を変えました。

1968年、デュシャンは世界します。どうの昔に美術界を離れ、チェスに没頭することを選択したにもかかわらず、現代美術界の巨星であり続けた男の死は一つの時代の終わりとリンクしていたのかもしれませんが。彼が世を去ったその年に美術の枠組みの外で、興味深い「オブジェ」の存在が確認されます。考古学者、ラルフ・ソレッキ博士が中東の洞窟で発掘したネアンデルタール人の遺骨から大量の花粉が検出されたのもこの年です。洞窟には生息しない植物の花粉が遺骨に付着していたことから、彼等はネアンデルタール人が「精神文化」を有していたと推測します。遺骨に花粉が移動した事実は必然的に我々の想像力を刺激します。我々は彼等の死者を敬う心ばかりか、彼等が形成する美しい社会のありさまでをイメージしてしまいます。この仮説は後に否定されることとなりますが、この我々の花粉によって始動する想像力とそれによって映し出されるヴィジョンを否定することはできません。

既製物の移動とそれが生み出す心理的インパクトによって価値形成を語る現代美術上の脈絡を始動した男の没年に、物の移動が社会の理想を映し出す物証が偶然にも発見されました。私も移動によって、表現を試行する作家の一人ですが、2001年9月11日、沈黙する米国美術界を目の当たりにしたことを期にデュシャン・ピアンアートとの関連で自分を語ることをやめました。あれから、骨に付着した花粉を私の表現活動における原点にしたいと考えるようになりました。

私の研究

短大生活文化学科 講師

阿部 陽子

専門分野: 音楽教育、ピアノ演奏

主な担当科目: ピアノI・II・III、音楽I・II



専門はピアノ演奏ですが、保育者養成校に勤務してからは音楽指導法について研究しています。

近年は、保育者志望であっても鍵盤楽器を習った経験がない学生が多数入学してきます。未経験者が入学者の半分以上を占める年もあり、全員が「保育者として十分なピアノ技術を身につけて卒業するには指導上様々な工夫が必要です。平成18年度からは、簡易伴奏法に関する研究を行っています。童謡や唱歌、現代の子どもの歌の中には主要三和音を用いた簡易伴奏で弾くことができるものも多く、学生もそのことを理解し積極的に取り組むようになりました。この伴奏法によって、学生のレパートリー数の増加が確認できています。

また、平成22年度からは、昼休みに10minutesコンサートを開催しています。ここ数年、学生の表現力不足が目立つように感じていますが、それは演奏会に足を運ぶ機会が少なく音楽による感動体験が乏しいためではないかと考えるようになりました。そのような学生に身近で音楽を聴いて欲しいという思いからこのコンサートを試みています。昨年はショパンの「ノクターン第2番」や「幻想即興曲」、エルガーの「愛の挨拶」、中田喜直の「エチュード・アレグロ」などを演奏しました。少しでも多くの学生が聴き、何かを感じ取ってくれればと思っています。

大学家政学科 講師

川又 勝子

専門分野: 被服一般(染色学、被服平面造形)

主な担当科目: 被服平面造形学、染色学実習、テキスタイルデザイン



仙台地方に特有な型染めの調査と、それらの文様をデジタルアーカイブし現代に活かす方法について研究しています。

仙台的型染めの代表格は、明治から戦前にかけて隆盛した「常盤紺形染」という植物文様や動物文様、幾何文などが白抜きで表現された藍染め布です。この染物の特徴は、他の染織技法から得られる模様(織絨や絞染め)を型染めで表現していることにあります。東北では絨織の技術が育ちませんでしたが、人々が憧れた絨模様の布をこの染物が安価に提供していました。また、模様を付ける防染糊にも特徴があります。通常はもち米を主原料とした糊が使われますが、常盤紺形染では粘土質の白土に蕨粉を混ぜたものが用いられました。

残念ながら、当時の常盤紺形染の衣類や布地は殆ど残されていません。布の寿命が尽きるまで大切にに使われたのでしょう。そこで、模様付けに使われた型紙に注目したところ、1,000枚以上の型紙について調査と電子保存をさせていただくことができました。しかし、型紙の多くも劣化が著しい状態にあります。

現在は主に、大正～昭和の注染(浴衣や手拭)を研究対象とし、900枚以上の地域色豊かな注染型紙の調査と電子保存、そして複製型紙の制作とその活用についての研究を継続中です。

なお、この一連の研究には文部科学省科学研究費補助金(H18年～23年)、日本学術振興会科学研究費助成金(H24年)の交付を受けていることを申し添えます。

大学家政学科 教授

片山 正文

専門分野: 外科学

主な担当科目: 解剖生理学、病理学、臨床医学



私の専門分野は外科学です。東北大学卒業後2年間の研修を終え、東北大学の第二外科というところに入ってからが研究の開始となります。主な研究対象は食道癌で、治療成績の向上を目指し臨床研究を行う傍ら、基礎的研究として食道癌および正常食道の細胞を培養し、その増殖様式の違いを研究してきました。30年前に研究を始めてから約15年間研究を行ったことになります。残念ながら基礎研究の成果は臨床に繋がることはなかったのですが、最新の細胞培養の技術や遺伝子工学の技術を使った研究は楽しいものでした。大学病院を去り、病院で消化器外科の臨床を行っていましたが、平成15年に東北生活文化大学に赴任しました。本学では「課題研究」として学生とともに透析患者の栄養に関する研究と学校保健に関する研究を行ってきました。学校保健に関しては、喫煙、インフルエンザ蔓延、薬物乱用、健診などをテーマとしました。2年前より東北大学で行っていたような細胞培養を用いた研究のための設備が整い、学生と一緒に実験を始めています。東北大学加齢医学研究所から癌の細胞を手し、増殖様式などを検討してきましたが、正常細胞と癌細胞で違う点がいくつか分りました。その中で培養液中のカルシウム濃度と癌の増殖度の関係に興味をもっています。現在、細胞内カルシウム濃度を測定するために種々の準備をしているところです。